

最上西國鉄父坂東

おきりんさん海之...

特別
イ 4
3159
C87



不
2159
087

序

抑々最上三十三所頌礼の由来を尋ねるに於ては八幡太郎義家公の後胤羽州國司斯波兼頼公五代の孫大京大夫頼家公の御子に光姫君と云ふあり應永年中故有つて將に自殺せんといはるに乳母の諫言不應し平素觀世音菩薩を信仰致せし故に乳母と俱に城中を忍び出て安養寺比丘を師とし遁安菩提のたふ尼となり比丘の実母も尼乳母諸共尼となりて三人同行して若松觀世音拜礼の處赴きし途申にて日暮きりれは觀世音方角

化身し後一番若松觀音より三十三番の靈場
庭月に至る迄を詳たに書き示し給ふと始末とし
て順礼致したるを初久し以夫より五百年以
来今に至る迄老若男女信心の輩踵をついで順礼
するにこと、はたまた、是れ諸人の知れることなる事
附最上三十三所觀音靈驗記委細記あり



房一番 若松 別當 來吽院

かゝるにうまれあふまけり
おいふもたの免とてあひひと

房二番 山寺 今 立石寺

みわつけのちひいあまねき
ねがふとちひあちひあまねき

茅三番 千手堂 全 吉祥院

兼をみていまるやたをんせん^堂
此のちんれいまるや^りあらん

茅四番 山形 全 圓應寺

おあしてほしげふむ^りあ^の道
たきい^りれたのまぬあし

茅五番 唐松 全 石井奥天

み^りあ^の松の
くせ^いあ^の川の

茅六番 平清水 全 耕龍寺

む^りあ^の水
む^りあ^の水

、**房七番** **岩波** 全 **石行寺**

みま人のあもををばはどぶ岩波の
ちろひいつきじこけのむきまぞ

房八番 山形 **六椹** 寺 **宗福院**

おもくともさつこのつとくまよも
む川のくのぎふまもるみあれ

房九番 **松尾山** 元全 **松尾院**

このち宛のいんぶねらんたすを
ちいせをこふま川ののをの

房十番 **上の山** 全 **観音寺**

のをもまびいんぶねらんたすを
てくまらるまのちのよのため

十一番 高松 全 光明院

たう松やを屋まのほはれおとまを
おのりなるもふにづきつてもらん

十二番 長谷堂 全 長光院

いくたびもまのころころいもむぎの
やまもちうひをふくあけり

十三番 三河 全 常福寺

しげらもや月のゆきもみくも
うねのひきもあくるものめ

十四番 田 全 正法寺

はちみぶくしゆきもたのめ
おのりなるこのひきなるん

十九番

黒鳥

秀重院

むじよりたつともあぬるを
ほげ乃ちあひあつたあけけ

二十番

小松沢

清浄院

ちげののれをえたてして松
をををちあひあつたあけ

二十一番

五十沢

喜覚寺

ひどのいさあもあつたあけ
やまのれをえたてして松

二十二番

延沢

龍護寺

いのれたひとあひあつたあけ
はらのちあひあつたあけ

四四二七
尾花沢
一里半
東西

四四二七
延次
南

七三番

六沢 ロクサハ

全 圓照寺

いまここにみちのたふぬのちを多く
のちのよきまじらうがあらけり

七四番

上、畑 全

大志士の如きのもてふたふた
あきの大志もてははる川ありけり

四四二八
銀山越
村里

七五番

尾花沢 全

養泉寺

あまのたははのみのみでのいれ
てふとあるまにゆらぐたまのを

七六番

川前 全

あつみきをきよめたる
まじらぬいなるし

崎
四三九
南
?

先祖代々諸每有兩緣
 願星院天然開庭居士
 鷲山院釋尼妙善大姉
 長照院壽山良榮居士
 祥徳院真室妙操大姉
 玉照院家山妙珍大姉
 真頌院鏡心智照大姉
 真光院莊臺慧嚴大姉
 蒼海院珠林妙理大姉
 法燈院榮林昌繁大姉

為 各々靈位菩提也

持し〜西國の礼の由を記す
 人皇六十五代のときと花山地津彦をのがれ
 させられたり伊弉諾をたもて入道法皇と
 ありしはさるるなりとたてしなりと人皇の
 御つひあて三月十七日よりなち出をきりて
 六月朔日までふみぬくたふふのち
 りしあさめたるなり ○人皇六十五代
 寛治二年より明徳三年まで八百年あり
 歎こしめたりしはさるるなりとたてしなりと
 人皇の御つひあて三月十七日よりなち出をきりて

西國

却詠歌

○ 第一番 西國 歌古
あはれなる西國の歌
あはれなる西國の歌

○ 第二番 西國 歌古
あはれなる西國の歌
あはれなる西國の歌

○ 房七番 やまの おくらで
けいんせいの あまの のい
あまの あまの のい

○ 房八番 やまの ^{ハツセ} あまの
^{長谷} あまの のい
あまの あまの のい

○ 房九番 あまの あまの
あまの のい
あまの あまの のい

房十番 あまの あまの
あまの のい
あまの あまの のい

十一番 あまの たの かみ

あまのたのかみ
あまのたのかみ
あまのたのかみ
あまのたのかみ

十二番 あまの たの かみ

あまのたのかみ
あまのたのかみ
あまのたのかみ
あまのたのかみ

十三番 あまの たの かみ

あまのたのかみ
あまのたのかみ
あまのたのかみ
あまのたのかみ

十四番 あまの たの かみ

あまのたのかみ
あまのたのかみ
あまのたのかみ
あまのたのかみ

十九番

Handwritten ~ ~ ~

Handwritten ~ ~ ~

廿番

Handwritten ~ ~ ~

Handwritten ~ ~ ~

廿一番

Handwritten ~ ~ ~

Handwritten ~ ~ ~

廿二番

Handwritten ~ ~ ~

Handwritten ~ ~ ~

蒲生郡
島村
八幡
陸路一里

東莞蘇
ト安土山
ノ間
安土下車
練二十丁
織山下

世一番 あまの あめ ら

やちと母も あまの あめ ら

ちと母も あまの あめ ら

世二番 あまの あめ ら

あまの あまの あめ ら

あまの あまの あめ ら

弟世三番 あまの あめ ら

あまの あまの あめ ら

あまの あまの あめ ら

南無大慈大悲觀世音菩薩

あまの あまの あめ ら

あまの あまの あめ ら

秩父
三十
御詠歌
四番

第一番 *wa-ban-ya-pan*

あふみゆのさかきさかきのつら
あふみゆのさかきさかきのつら

二番 *wa-ni-ban* *あふみゆ*

あふみゆのさかきさかきのつら
あふみゆのさかきさかきのつら

三番 Swanant Went
Went Swanant Went
Went Swanant Went

四番 Went Swanant
Went Swanant Went
Went Swanant Went

五番 Went Swanant
Went Swanant Went
Went Swanant Went

六番 Went Swanant
Went Swanant Went
Went Swanant Went

七番 さいばし せんぽん
せんぽんをばしせんぽんをばし
せんぽんをばしせんぽんをばし

八番 せんぽん

せんぽんをばしせんぽんをばし
せんぽんをばしせんぽんをばし

九番 せんぽん

せんぽんをばしせんぽんをばし
せんぽんをばしせんぽんをばし

十番 せんぽん

せんぽんをばしせんぽんをばし
せんぽんをばしせんぽんをばし

十五番

How do you

How do you How do you
How do you How do you

十六番

How do you

How do you How do you
How do you How do you

十七番

How do you

How do you How do you
How do you How do you

十八番

How do you

How do you How do you
How do you How do you

十九番

あめりか

あめりか あめりか あめりか
あめりか あめりか あめりか

廿番

あめりか

あめりか あめりか あめりか
あめりか あめりか あめりか

廿一番

あめりか

あめりか あめりか あめりか
あめりか あめりか あめりか

廿二番

あめりか

あめりか あめりか あめりか
あめりか あめりか あめりか

廿七番 上らばゆりあふらして

あつらひをまじへてさうなふものしるすはし
あつらひいへてお月のららぬぬ

廿八番 はしだて

まふのうらみたらむいあふくものあ
たふひあふらしてさうなふものし

廿九番 さくののし

あけのがつむいさうなふものあひひ
るしけをまじへてさうなふものし

卅番 ふらたふあふらして

あつらひをまじへてさうなふものし
あひひあふらたふものあひひたのし

世一番 一のS copy

一のS copyは二のS copyより
一のS copyは二のS copyより

世二番 一のS copyは二のS copyより

一のS copyは二のS copyより
一のS copyは二のS copyより

世三番 一のS copyは二のS copyより

一のS copyは二のS copyより
一のS copyは二のS copyより

世四番 一のS copyは二のS copyより

一のS copyは二のS copyより
一のS copyは二のS copyより

坂東
世之所
觀音
詠歌

ふしやみかたにのりて
是れはまことありて
有信の男女にあふふ
百番御詠歌を様
最上なる大悲の施主
西國秩父
山形市旅籠町
霞香堂拜刺

一番 鎌倉 杉本寺

杉本寺の... 杉本寺の... 杉本寺の...

二番 三浦 岩殿寺

岩殿寺の... 岩殿寺の... 岩殿寺の...

杉本寺の... 杉本寺の... 杉本寺の... 杉本寺の...

三番 田代寺

田代寺の... 田代寺の... 田代寺の...

田代寺の... 田代寺の... 田代寺の...

四番 長谷寺

長谷寺の... 長谷寺の... 長谷寺の...

長谷寺の... 長谷寺の... 長谷寺の... 長谷寺の...

五番

飯泉寺

廿のりけり持くるもよりの櫓櫓
有餘の寢る涌るす飯泉

六番

飯山寺

飯山もまきちゆりしがり
つらきあめり

入桐りいづく杉んりのまき

七番

金目寺

何るまは金目の観世まき

二世安業と確といひ

八番

星合谷寺

さけりしきまの連の元を
あま揚る

月まらるとまに新む星谷

○ 九番

慈光寺

中いりらにた急古寺の慈光寺

哲子もくに浮き定殿

十番

比企岩屋

後で来る浮世のくまもら下也

哲子細子此きの岩殿

○ 十一番

吉見岩殿

しんえよと法の懸りよとや元子

四より東みの傳りをもは

十二番

慈恩寺

法の記白ふ柿の寺は他

沈むるもくも浮む七島

十三番

浅草寺

深きとが分る後おのまあらじ
つみ浅草のよをしらるるなり

十四番

弘明寺

ありがごとくおぼゆるの海子
そくぐ恵より解るる遊のみち疲ゆけ

十五番

白石寺イ崇

皆人の祈る心をしらすはの
おぬおぼゆるのよし

十六番

水澤寺

あくるる心をあはれ水澤の
深きおぼゆるのよし

十七番 出流

ふくやまはるしこくにま出ら
我が行末はいつともなく

○十八番 中禪寺

神后なるおとりにて神む
湖水の

春の立水は誓久し

十九番 大谷寺

名をゆりくも深きやみのおちみさ
祈るもあまのしるしなるは

二十番 西明寺

るおくる人よみくみの登り
つひのすゝめしみるひまのさ

廿一番

八講寺

ふくまきふくまきふくまきの岩のやけな
月つえふくまきふくまき

廿二番

佐竹寺

いふまごら直ぐなる法代

法代

法の深し傳なまき

廿三番

佐白寺

善の母のわむりもさよりの代

妙なる法や細音くねん

廿四番

兩引寺

名降り佛の山をおち越えて

あかひきききききききき

廿五番

大御堂

新まのの地じまてつらに
みくらに
みわの佛の淨刹とがなる

廿六番

清隆寺

我々心介りのちは隅を
清隆寺くたるる

廿七番

飯沼寺

藪をさくわくを何と飯沼の
深き地を汲ひく

廿八番

滑川寺

滑川寺の草を水をなめが
明又此の舟が浮く

世九番

千葉寺

法のよおに三つ介とさきとの節候にて

善きものよ白ふ子葉の古

世番

高藏寺

法とのよおに三つ介とさきとの節候にて

善きものよ白ふ子葉の古

○世一番

笠森寺

日はくま雨はふるの道すくま
かゝるたひ路を頼む笠森寺

世二番

清水寺

湯の世は妙なる法之言を心に

かゝるたひ路を頼む清水

NO. 74

○世三番

那古寺

浦原のいしはあじ

那古寺

石つ成りも法のみ

右世三所寺名白石紳書と據る

天童 漆山又四郎



詠歌の参詣の都度記入すゝまの也

